

林務日誌公開にあたって筆者の意思を尊重し、句読点や用語など原文のまま掲載します

施設厚生林務部 P T A 林日誌抜粋（前期 昭和 33 年度～昭和 36 年度）

- 昭和 33 年 富県財産区議会に兼ねて申請中の P T A 林設定の件財産区議会に於いて決議決定した議案第 1 号新山小中学校 P T A 林設定に付いて左記設定願出理由により次の通り設定する
- 1 設定理由  
 設定目的 新山小中学校 P T A 林  
 地籍 参町歩  
 設定願出人 新山小中学校 P T A 会長 間沢眞  
 副会長 山崎利平 米山谿郎
- 2 P T A 林設定  
 設定地 伊那市大字富県字場広山一七七七番地 通称永見山  
 地籍 参町歩  
 付記 富県財産区有地の内林産組合に貸付けてある式拾六町九反五畝歩の内、参町歩を P T A 林設定のため林産組合が提供したものである
- 昭和 33 年 8 月 20 日提出 富県財産区管理者 伊那市長 原賢一  
 右決議する昭和 33 年 8 月 20 日富県財産区議会 議長 吉澤藤昌
- 8 月 23 日 P T A 林の件に付き武村匡見総務部長、山崎副、米山校長先生、地方事務所諸中技師、富県森林組合の柴技師と同林経営に付き打ち合わせをなし、九月に入ったら早々と実地調査する事に話し両技師の積極的指導によって経営する事に決した
- 9 月 19 日 P T A 三役、総務部関係、学校から先生三名、諸中技師、柴技師と永見山に登り實状を見る
- 昭和 25 年度新山中卒業生が緑風会と云う名称の元に一部分唐松を植林し、相向いに自然生の赤松とが何れも良く伸びては居るが其の後手入れが出来ず衰れな姿をしているが、今後の手入れ如何では美林となるからと両技術者の話。外郭を一巡して終わる何れ年内に實地測量 をなし来年度の植林計画を樹立しなくてはならぬからと云う所
- 9 月 24 日 P T A 評議員会の折 P T A 林に付き総務部から今日までの経過報告をなし、今後理想的な経営をなすには新山らしく山に関する部を設けて専門に当る事に決し総務部より人選して林務部と称し右に決した
- 林務部長 山寺今朝光 部員 井上四郎 田畑平吉
- 11 月 27 日 地拵へ渡し 来年度植付予定地の藪切り地拵へを地元希望者に来春植付時迄に責任を持ってスッキリ刈り取ってやぶの搬出をなし植付に支障なき様に地拵へをする 特に植付は手入等学童を対照だから懇切丁寧になす様要望なし尚責任上、下刈りの責任者を定めて置き赤松及び植付けた唐松等は更に切らない事を約束して責任者を山崎昇氏として今後下払に付いて本年度の一切責任を負うて貰ふ事にした
- 12 月 3 日 實地測量 諸中、柴両技官が實地測量に出張され P T A にては林務部が主にて正副会長学校米山校長、山崎教頭先生とで測量なす。昨日の初雪が山のヒラには七、八寸も積も

って居て非常に冷たくて大変だった。午後二時頃終了して学校に下り慰労会

昭和 34 年

- 3 月 13 日 諸中技師出張された昨冬実測なしたる P T A 林の製図が出来て山寺部長、山崎副会長、又学校側から西教頭先生とで見るとに實測面積四町九反四畝と云う大きな数字が出たがこれは表面はあく迄参町歩と云う事にして置かぬと昨年財産区に申請した件、又桜井区との関係等に係わるからと云う話合いをなした  
3 4 年度春植付予定地は二林班で一町一反四畝で唐松を植付ける予定 反当り 3 0 0 本で 2, 0 0 0 本と赤松反当り 4 0 0 本の 1, 5 0 0 本の予定を立てた
- 4 月 6 日 長期計画の基に中一年生に種子の蒔付け中二年生に唐松幼苗 2, 0 0 0 本を、中三年生協力の元に地方事務所林務課の専門普及員橋爪技師と同じく改良普及員諸中技師とで学校農地で実地指導を受け、市川先生始め中学校の先生方皆熱心に受講なした
- 4 月 9 日 評議員会で予算編成 林務部予算は本年度初めての試みで相当額を必要とするが、P T A 会費の増額は己に限界に来て居りこれ以上の増額は出来ないと云う事。しかし P T A 林経営は行末将来の基本財産の造製と云う角度から P T A 林経営費は特別負担として一般会員に賦課する旨を一般に計り尚、東部区長会の協力を得て一般の了解を得、一戸当り金 1 0 0 円宛を北林上中下新山全戸から徴収し総じて会計面も特別会計として取り扱う事にした  
但 P T A 会員でも学校の先生は負担を除く  
P T A 総予算額 1 1 1, 0 5 0 円  
林務部予算書 収入 23,000 円一戸平均 100 円負担 230 戸分 P T A 会計から 3,500 円
- 4 月 11 日 木苗受け取り 森林組合からの赤松 1,500 本来たり置くに和手仕上げ暇植なし置く、尚唐松苗木は植付当日受取る手筈になした
- 4 月 14 日 木植 いよいよ P T A 林植林を今日始める 初めての試みとして林務課の諸中技師の指導を得て植え始めた。学校から中学生全員七十三名、中学の先生、校長先生、上島。小原、松井、北原、宮沢、向山の八先生。P T A 会長山寺金一、副会長寺澤邦雄、会計井上金光、林務部山崎利平、六波羅藤内、井上勲、中山義信、武村保人、竹村伊那雄、倉澤政藤  
総務部長羽場親一、厚生部長橋爪等、文化部長六波羅太仁登、校外指導部長上村健次郎進学部長筒井政一、合計九拾八名にて植え始めた唐松が六尺×六尺植 赤松が六尺×五尺植唐松一反歩当り 300 本、赤松一反歩当り 400 本  
予定より百本位苗木の不足で全面予定通り午後四時頃終了。兼ねて予算に依る中学生に植林手当てとして一回一人 2 0 円位 (キヤラメル一個宛て) を支給して活着を祈って下山。諸中技師の慰労と P T A 林初の試みの植樹祭を行ふ 本日の植付苗木唐松 2,500 本、赤松 1,500 本、計 4,000 本
- 5 月 11 日 活着歩合視察 植林後の活着状態を校長先生と視察。全山活着歩合は良好だが赤松は旅苗なるが故に枯死せるもののが 1 5 ~ 2 0 % 位あると思うが唐松は 5 ~ 1 0 % 位の枯死だと思ふ
- 5 月 21 日 植林地に施肥 肥培管理に依る早期伐採を目的として植林地に施肥を施す計画として 山 二号を四呎 (粒状四呎で約一万個 40 円) を赤松植林地に施す 前回委員会にて決した中学生を依頼し諸中技師指導のもとに行う 施肥の適期は植えた苗木の活着した植付後約 1 ヶ月を適期だそうだ例に依り子供には植林時と同じ手当て出した。農繁多忙

- 期故、林務部長山崎と学校とで施す。所要時間約三時間
- 6月22日 諸中技師PTA林視察 植林に施肥に熱心してくれ、尚其の後の視察に来て赤松植林地に異様の害虫発生して被害甚大なると発見して被害木を持参してその向きの権威者の意見を呈してくれると云う事にした
- 6月24日 諸中氏出張 前記被害木を信大農学部の調査により県下に稀な被害で直ぐに薬剤散布なくしては全面被害は免れぬ木食いぞう虫という害虫で一日を争う様だが目下農家は春蚕五参五、六日めで猫の手も必要な時故ここ数日を待つよう話した
- 7月1日 役員会 将来への期待を持ち多額の計費とをかけた植林地に県下稀に見る害虫発生に依る被害で全山に及ぼしては係としても責任重大なる故今日は緊急役員会を開き対策を研究し直に林務課に報告指導を受けた所BHCガンマー3%を散布する様指示があった
- 7月3日 消毒作業 諸中氏出張されPTA三役と林務部員は前記の薬剤を持参して赤松植林地に行き被害木を全部集めて焼却し健苗に対し丁寧に消毒なした。早期発見したため被害は最小限度に食い止めたものと思う。被害大体30~40%位薬剤使用量はBHC3kg入3袋
- 7月16日 植林地検査 植林地補助金申請をなし置きたるに付き本日植林地検査に地方林務課より
- 諸中氏富県森林組合から柴氏来実地調査して合格の内達を得た
- 7月27日 下草刈 植林事業の一大手入で一番大切な仕事の今日は下草刈りいづれも学校の協力を得て中学生が比の作業に当たってくれる事になって居る。時は酷暑の中で子供の作業には少し無理も伴うが学校側の熱心により良く子供も働き植林地下草刈りとしては全く模範的な作業が出来た。先ず以って植林地に対しての手入れは本年度は終了した。例に依り子供に作業手当てを出して怪我人もなく無事終了を喜ぶ
- 9月31日 下見 山寺会長、山崎部長とPTA林に行き、学校校舎屋根の雪止めの材を見付けに行きしが適材はない
- 10月20日 部長会 提案 今回富県財産区に対して新山場広山官公造林地の繰上げ伐採に伴う跡地処置に付き種々の論があるが此の際新山学校PTAとしては兼ねて原市長の主唱に基づきPTA林の増反すべきで官公林跡地を拾町歩の増反を桜井以東関係部落に又新山区長に申し出る協議なした
- 10月25日 苗木注文 森林組合にて唐松苗2,500本新植用 赤松苗500本補植用
- 11月24日 上新山区総会 兼ねて部長会にて了解済みのPTA林増反問題を上新山区総会に提案し、其の他の了解を得られれば上新山区は賛成の結論を得た
- 「注」官公造林伐採跡地は原則として官公林再契約はしないそうだ。理由は立木売上代金を持って造林すべきものだそうだ。しかるに当財産区としては官公造林再契約を営林署に申請中。理由は再建整備中の伊那市としては立木売却代金は造林資金として使用の余地なくもっと必要欠くべからざる使用途有という事で申請するも未だ再契約の法律が無いが、ここ何年かすればこの道も開ける見通しに付きニヵ年分新山学校PTA林として地元にて植林なして居る内中には再契約法が出来るものとしての見通し
- 12月6日 雑木除伐手入 昭和二十五年に植え付けた唐松林の中の雑木を除伐し徹底的手入を先の評議員会決定に基き今日から三日間予定で開始した。今日は二十人出勤予定が十四名しか出勤なし下新山から八名 西の平から六名雑木を切って取れる範囲は全部薪とし

て夕方に詰めた

- 12月7日 除伐二日目 今日北林から精鋭十八名出勤良く能率が上がって嬉しかった。本日も二十名出勤の予定なりしが二名の欠勤
- 12月8日 除伐三日目 今日中新山精鋭人夫二十二名朝から張り込んで切ってくれて予定地区を今日薪を切り終わり、たがに詰め終わった薪が300本ばかり出来たがこのまま置く事はまずいから明日十名を動員して全部トラック道迄で出す予定を立て直ちに明日の人夫の割り当てをした
- 12月9日 第四回目搬出 宮原の流れを十名動員したのに七名しか出勤なし。しかし今日はどうしても出したいと張り込んでトラック道迄全部294束を婦人の人夫を交えて運びだすは道中も長いし生木で無理だったが良くがんばってくれて責任者としては非常に嬉しかった。昨年春以来の懸案だった植林地手入の件も約半分でき持って何年か先の美林の姿が今から想像して嬉しいが来年の春農繁期前に自然林の赤松林の手入が目下仕事だ
- 昭和35年
- 1月14日 伊那市役所に補助申請 米山校長先生と山崎林務部長とで市役所にPTA林補助申請に行く34年4月新山学校に市長及びの折、PTA林には補助金を出すと居たが其の後予算処理がないからという事で今回の予算編成に措いて予算処理をして貰う様依頼した。教育委員会としては快く引き受けてくれ直ちに経過報告書を出すよう言われてきた
- 1月18日 市役所へ事業報告書提出
- 3月20日 本年度中学卒業児童三十名が卒業記念植樹をPTAに本日なした唐松300本を植えた
- 3月27日 赤松天然林間伐をなした 出勤人夫は宮原宮下中平区より拾名開拓より十名で一生懸命働いて夕方迄に予定通り全山切り、尚薪に切りたがに詰め終わった明日一日人夫を要すると思ったが能率が上がったから努力賞として一パイ振舞った。薪が185束を得た
- 3月29日 薪搬出 昨日間伐した薪を和手から八名人夫をだして自動車道まで搬出なした。学校と約束して薪を昨冬の分今度の分迄全部学校に買って貰う事にした
- 4月1日 木苗受取り 兼ねて注文して置いた木苗唐松2,500本赤松1,000本来り受け取って和手宝蔵まで上げて来て暇植なす
- 4月15日 木植 昨年通り中学一年より三年生迄計七十三名、中学の先生、上島教頭、他出勤唐松苗は新植地に学生が植え赤松1,000本は昨年虫害を受けた跡地にPTAの役員全員にて補植をなした 前記苗木数にて充分植え終わる予定なりしが面積の見間違いか苗木の不足にて全面植える事が出来なんだから直に森林組合と連絡を取ったところ大体苗木の補充の見込みも付きたから苗の来次第、学校と話しあい植樹するよう相談した追加注文数 唐松1,000本 赤松200本 学校児童用幼苗1,000本
- 4月23日 PTA林木植 苗不足のため出来なんだ分を今日植えた 出勤者は小学校五六年生、中学一二年生PTAから正副会長、林務部長会計、学年担任の先生とでなした。林務課諸中技師来りて指導した
- 5月23日 PTA林補助金10,000円也 伊那市教育委員会よりPTA林に対して支給の通知有りてPTA会長受け取って来てくれた
- 5月30日 植林補助申請 本年度植付地の植林補助申請書を富県森林組合に提出した  
唐松 一町歩 3,000本 赤松 一反五畝 500本

- 7月16日 P T A林下刈り 酷暑の真っ最中だ今日も晴天でじりじりしそうだから成可と能率を上げて午前中には作業を終える予定だ 今年是新校長の意見を入れ小学年も作業に参加させて山に対する観念を高めさせたいと云うから小学五六年、中学一二年、正副会長、林務部三名、総計百余名作業中の怪我もなく予定通りの能率で予定の時間に終了できて暑い中を下山し慰労会が無事出来た事を喜ぶ
- 11月5日 市役所教育委員会に行き伊沢課長を尋ね本年度補助金の事で更正予算に入れてもらう事を依頼し課長は未だ山を實見してないから折を待って是非見たいと云う事となり学校とも相談して日を決定次第通知する話をしてきた
- 12月21日 教育委員会が視察 兼ねて申し込んでいたP T A林實地視察のため伊沢課長、春日係長が来た。会長及副、会計、林務部員全員とで山の案内をして説明をして全山境界見て下山した。地拵えの完全さ、手入の充分さは他に例がない様だとほめられた。学校に下りて慰労会をなし、山鳥一羽宛送って向かう。三年間はどうしても補助金に依頼しなくては山の管理が出来ないからと現状を話して補助金を出して貰う事を依頼した所、良い返事をしてくれた
- 12月25日 苗木注文 昭和36年度植苗木注文を富県森林組合になした主として補植用で唐松800本
- 昭和36年
- 4月8日 役員会 昭和36年度部会の役員編成予算編成事業計画等立てた 今年補植が主だから苗木の注文を僅かだよ。しかし今年先き植えの場所は3年目手入が先決だから6月下旬に一回、七月下旬か八月上旬に二回の下草刈りをなしP T A林として他に恥じない手入をして伊那市内は勿論郡県にも希に見る美林にする予定だ肥料も出来れば施したい。今年最後の奉公として出来得る限りを尽くしたいと思う
- 4月27日 苗木 肥料運搬 学校から本年度補植用苗木と会長宅から山<sup>二</sup>号六呎をP T A林下まで運んだ
- 4月28日 P T A林木植 朝から晴天に恵まれ小中学年を動員して植樹には全くの好天だ小学五年三十三名 六年生三十一名 中一二十五名 中二三十名 中三二十七名 校長他林務部員四名 林務課から渡辺普及員と計百六十九名にて作業をなした 肥料の件は新山林産組合へ配給になったものをP T A林に回して貰う事で中腹以上の痩せ地に施した 一本に約10粒を施肥して途中で4粒を減らしてなし、面積は約六反歩位施肥出来た昨年四呎を施肥した所の発育は見に見えて良く伸びて居る 学校産苗木は非常に良く伸び又太いもの故にP T A役員が穴掘りをして中三の生徒に植えて貰い小五以上中二迄の生徒には山<sup>二</sup>号を施肥して貰った子供も良く働いてくれて非常に仕事の能率は上って午前中には作業を終わった
- 5月4日 教育委から補助金来る 当然来るものとして予算編成の時に収入金として置いた伊那市教育委員会からP T A林の補助金10,000円也が頂けて今日、校長先生が受け取って来てくれて農協新山支所の林務部口座に入れてくれたと校長先生から通知があった
- 7月27日 P T A林下草刈り 本年度事業計画の時の予定は見事に裏切られた 本年度の山への重点は下草刈りが専門の仕事と張り切り六月下旬から八月下旬頃迄には二回は下草刈りをなす覚悟で居たのに六月下旬一般春蚕も上簇したから雨の無い日を選んで一日と思つて居たら彼の梅雨前線豪雨で各所に災害が発生して下刈りなんて事はドコへやら

応急処置に毎日各人が出動でどうする事も出来ず一般の気持ちの落ち付くを待っていたら遂七月も下旬の今日となってしまった責任者の自分としては災害に等しい思いが一番大切の年だ 昨年から施肥してあるから雑草もグングン伸びる 早く刈り払うてやらねば折角施した肥料も雑草に吸い取られるし雑草の伸びで大切な植えた木は下草となって伸びられぬ 思えば一日千秋の思いで今日の日となった 時期が延びたり肥料を施してあり湿気は有りで雑草の茂るには好条件ばかりだ 加うるに梅雨上がりの晴天でこげつく様な暑さだから学校とも話し合い朝の始業を早くして涼しい内に能率を上げたいとお願いし又PTA役員も出来得る範囲で増員してと幹事まで動員して今日の出勤者左の人員小学五年以上中三迄生徒計百四十六名 先生方九名 PTAから十五名 計百七十名

予定の時間に始業した 梅雨中に近頃まれだと云う程の雨降りにもかかわらず蜂の巣の有る事 子供達が刺された悲鳴を各所に聞きながら汗ダクダクの中を良く頑張って下草刈りをやってくれた 朝早く遠い山道来て一生懸命働くから子供達から腹がへつたと云う声を聞いたが今一頑張りど気合をかけて先生方がやってくれて正午頃彼の茂った草むらを大人勢とはいいいながら三町歩近い面積を約半日でしかも丁寧に美しく刈り払ってくれた山を見た時は今日まで日が延びていらいらして来た自分の気持ちは一瞬にしてフン飛んでああ良かった植えた木もさぞ喜ぶだろう なんだか山が広くなった様に思えてやたら嬉しくなってしまった

作業開始の時、先生方の子供に対する作業中の心得を子供たちは良く守ってくれて今年一人の怪我人も無かった事は本当に嬉しかった

比の作業が終わって比の山に対する本年度の事業は大界終わったが悲しい事には本年度補植の苗木が大変枯死して居るには驚いた。今春は苗木植え付け後は異状早魃で各地から春植の唐松が枯死したとの話を聞いている。仕方ないから又明春500から1,000本位の苗木を用意して置いて補植の補植をしなければならぬ しかし山兎等の害が少なく生きて着したものは実に良く伸びている

8月27日 コンクール出品をすすめられる 富県林業普及協会の役員会の席上で協会長井上金右エ門氏 林務課の改良普及員渡辺技師から郡。県。迄PTA林を下刈りコンクールに出品する様薦められ自分としても出品する考えで居たから互れに応じた 期日を定めて下見に登山する事を約した

9月1日 林務課渡辺普及員井上協会長とが下検分に来て出品に付いて二三の注意事項を示された直にこれを実行して待機した

9月7日 森林組合審査 第一段階として富県森林組合主催下刈りコンクールの審査員が来て現地に案内審査を受けた 比の審査に依って郡 県までの出品資格を確保出来る訳けだ果たして結果はどうか

11月27日 県の審査員来る 地方事務所林務課より通知有り今日県からPTA林の審査が来るから其の準備をする様にと、兼ねて下見の折の注意に依り其の点を直して置いたから今更どうにもならぬと思いながらも扱、県からはるばる審査に来てくれるとなると一寸心のどよめきがした 嬉しい動きだった

昭和37年

1月17日 入賞通知来る 昨年11月に県から審査員が来て以来其の結果はと待つて居たが滝沢校長先生から長野県の一位に入賞したとの通知を受けた時は非常に嬉しかった

これで良かったP T A林発足の時の資金を新山全地区の皆様に一戸平均金1 0 0円出資して貰い又手入に間伐に働いて貰った甲斐があった又労力百をになってくれた学校の先生を始め小学校五年以上中学全生徒の苦勞が実のって晴れの入賞を得た事は全く同慶と喜ぶ次第である

1月25日

受賞に県庁へ 午前六時半新山学校出発午前七時二十一分伊那市駅出にて滝沢校長先生、生徒代表丸山敏男君、林務部山崎利平の三名出県した 今回のコンクールは1全日本学校植林コンクール2学校林経営コンクール3間伐手入コンクール4野鳥巣箱コンクール5山林田畑品評会の五種目の内の学校林経営コンクールの部に於いて入賞し全入賞者を代表して当新山中学校が答辞をなす事が出来た事は全く名誉の事と感激して来た当日の感銘は校長先生も生徒代表も忘れる事が出来ないものだと思ふた